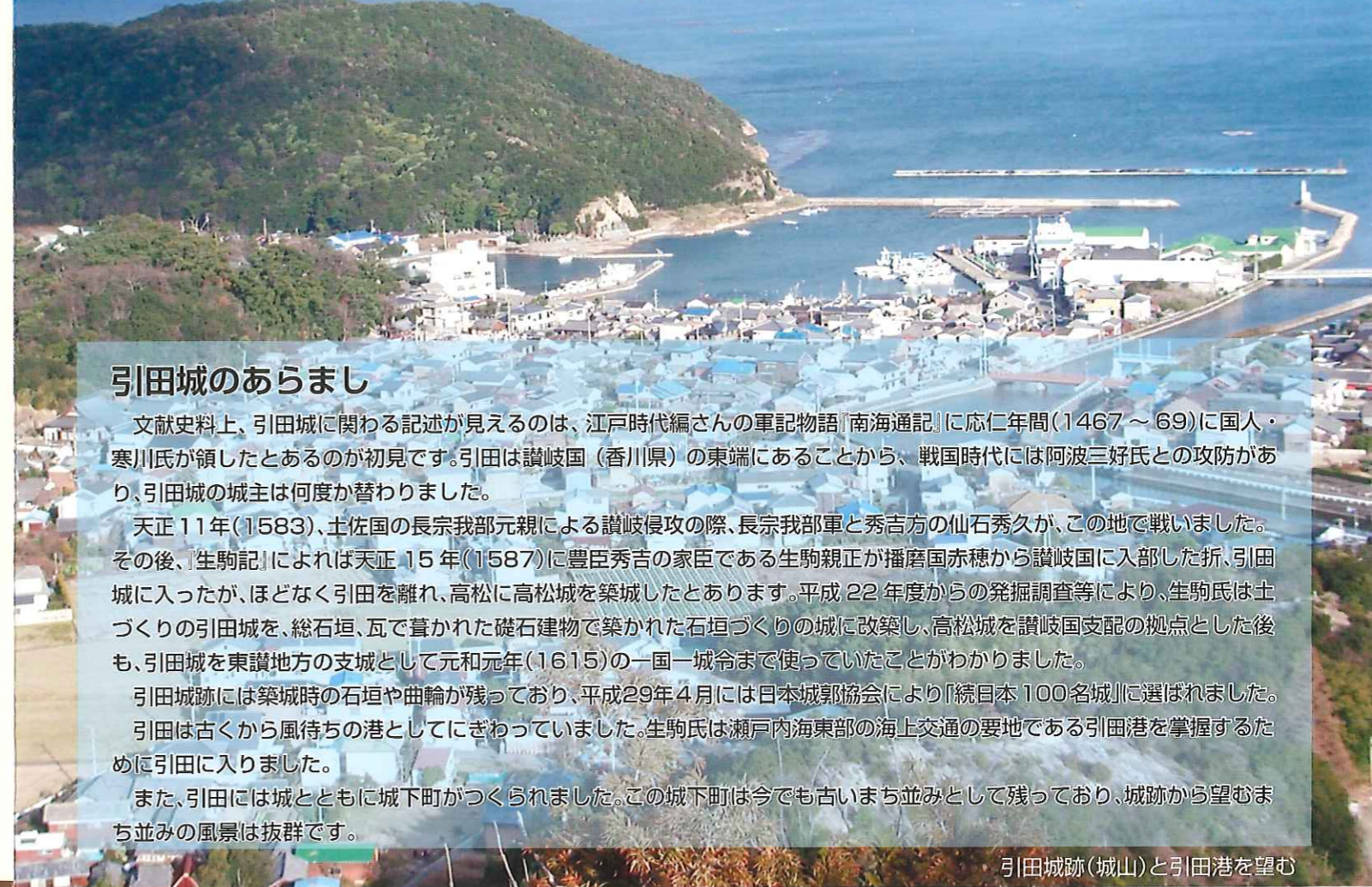


風待ちの港がみえる城

引田城跡

日本城郭協会選出
続日本100名城



引田城跡(城山)と引田港を望む

引田城のあらまし

文献史料上、引田城に関する記述が見えるのは、江戸時代編さんの軍記物語『南海通記』に応仁年間(1467～69)に国人・寒川氏が領したとあるのが初見です。引田は讃岐国(香川県)の東端にあることから、戦国時代には阿波三好氏との攻防があり、引田城の城主は何度か替わりました。

天正11年(1583)、土佐国の長宗我部元親による讃岐侵攻の際、長宗我部軍と秀吉方の仙石秀久が、この地で戦いました。その後、『生駒記』によれば天正15年(1587)に豊臣秀吉の家臣である生駒親正が播磨国赤穂から讃岐国に入部した折、引田城に入ったが、ほどなく引田を離れ、高松に高松城を築城したとあります。平成22年度からの発掘調査等により、生駒氏は土づくりの引田城を、総石垣、瓦で葺かれた礎石建物で築かれた石垣づくりの城に改築し、高松城を讃岐国支配の拠点とした後も、引田城を東讃地方の支城として元和元年(1615)の一国一城令まで使っていたことがわかりました。

引田城跡には築城時の石垣や曲輪が残っており、平成29年4月には日本城郭協会により『続日本100名城』に選ばれました。引田は古くから風待ちの港としてにぎわっていました。生駒氏は瀬戸内海東部の海上交通の要地である引田港を掌握するために引田に入りました。

また、引田には城とともに城下町がつくられました。この城下町は今でも古いまち並みとして残っており、城跡から望むまち並みの風景は抜群です。

引田城跡アクセスマップ



引田城跡は貴重な史跡です。引田城跡がある城山一帯は国有林、瀬戸内海国立公園、保安林が含まれます。定められたルールや関係法令を必ず守りましょう。

注意事項

- ・動きやすい靴と服装で登山してください。
- ・遊歩道以外は通らないでください。
- ・夜間の散策は危険です。
- ・日中の明るいうちに登山してください。
- ・水分補給など、体調を考慮しながら登山してください。
- ・遊歩道はありますが山道ですので、計画的に登山してください。
- ・引田城跡内(城山)にはトイレはありません。

禁止事項

- ・火気の使用(喫煙も含む)
- ・石垣の石や瓦などの持ち出し、移動
- ・石垣等への落書きや、石垣等に登るなどの危険行為
- ・ゴミのポイ捨て
- ・樹木の伐採、動植物の捕獲・採取

「続日本100名城」スタンプラリー スタンプ設置場所

●讃州井筒屋敷

東かがわ市引田2163番地
TEL 0879-23-8550
開館時間:10時～16時
休館日:毎週水曜日、年末年始

●引田公民館(東かがわ市引田庁舎内)

東かがわ市引田513番地1
TEL 0879-33-2533
開館時間:9時～17時
休館日:毎週火曜日、年末年始

★開館時間以外は押印できません。ご協力をお願いします。

発行

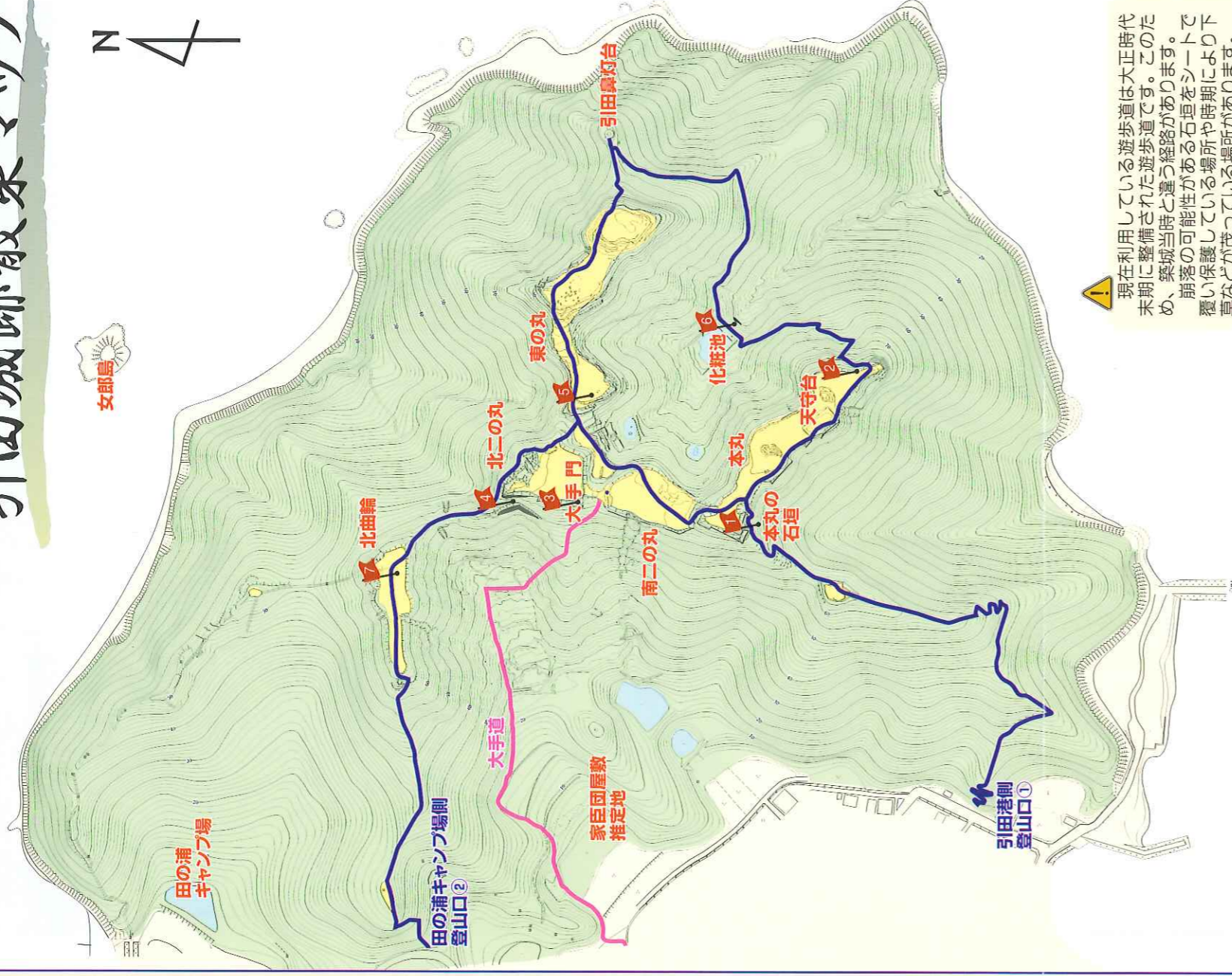
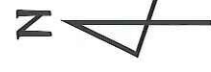
東かがわ市教育委員会 生涯学習課
〒769-2792 香川県東かがわ市湊1847番地1
TEL 0879-26-1238 FAX 0879-26-1340
平成30年5月現在※今後の調査などにより内容が変更することもあります。



引田城略年表

応仁元年	1467	国人の寒川氏が引田を所領とする。
永正年間	1504 ～21	信濃国から入った四宮右近が寒川氏に属して引田城を居城とする。阿波方の阿波三好氏と交戦する。
元龜元年	1570	阿波三好氏家臣矢野駿河守が引田城主となる。
天正5年	1577	矢野駿河守が阿波に引き上げ、以後引田城主がいなくなる。
天正10年	1582	土佐の長宗我部勢の阿波・讃岐侵攻が本格化する。
天正11年	1583	羽柴秀吉が淡路国洲本の仙石秀久を讃岐に派遣する。家臣の森志摩守を引田城に入れる。長宗我部勢と仙石勢による引田合戦が行われ、仙石勢が敗戦する。
天正13年	1585	仙石秀久が豊臣秀吉から讃岐国を与えられる。
天正15年	1587	生駒親正が豊臣秀吉から讃岐国を与えられ、播磨国赤穂から引田に入る。ほどなく引田を出て宇多津、高松に移る。
元和元年	1615	一国一城令。このときに引田城が廃城となったと考えられる。
文久3年	1863	異国船警備のため城山に狼煙場が設けられる。
大正末期～ 昭和初期	1924 ～30	引田城跡がある城山を城山公園として遊歩道や展望台が整備される。

引田城跡散策マップ



! 現在利用している遊歩道は大正時代末期に整備された遊歩道です。このため、築城当時と違う経路があります。崩落の可能性がある石垣をシートで覆い保護している場所や時期により下草などが茂っている場所があります。

引田城は、引田港を囲むように岬状に突き出した、元来陸繋島であった城山（標高82m）の山頂に築かれています。自然地形に沿ってU字形の城域を構成しています。

引田城跡には、生駒氏が築いた自然石を積んだ野面積の石垣が残っているほか、たくさんの瓦や建物の礎石がみついています。この技術は織田信長の安土城築城から始まり、織田信長・豊臣秀吉方勢力によって築かれた織豊系城郭と呼ばれるものの特徴です。

豊臣秀吉の家臣であった生駒氏が築いた曲輪や石垣が残っていることは、織豊系城郭の全国的な普及を捉える上でも貴重な山城といえます。それとともに、中世段階の土造りの曲輪と、生駒氏改築による石垣を備えた織豊時代の曲輪が残っており、地域の城郭発達を捉える上でも見どころが多い山城です。

引田城跡の見どころ



1 本丸の石垣

本丸の算木積は隙間に間詰め石を用いる古い積み方で、引田城跡で最初に築かれた石垣です。



2 本丸からみた引田のまち並み

本丸は、引田の「町」から最もよく見える位置にあり、権力を示すのに適した場所です。



3 大手門

大手門の周辺には大きな石材が置かれています。石垣によって城主の権威を示そうとしています。



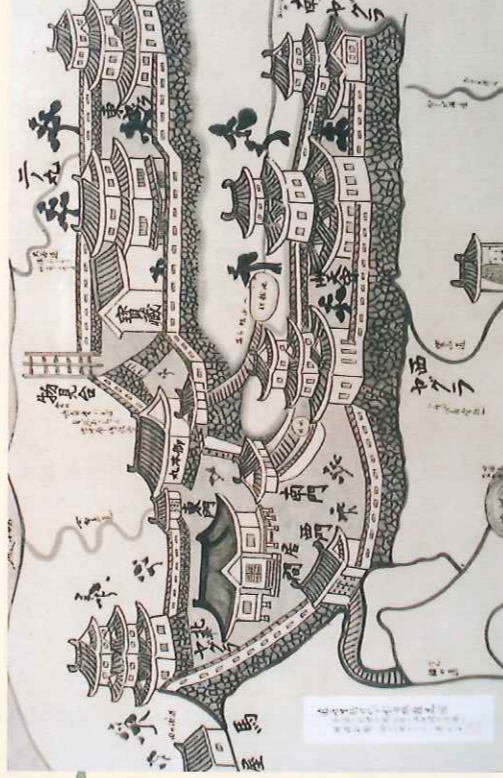
4 北二の丸

大手道を登っていくと、道の左右に北二の丸と南二の丸の石垣が広がります。北二の丸には上段2~3m、下段5~6mの高石垣が残っています。上段の石垣は城内でも大きな石材を使っています。下段の高石垣では間詰め石が丁寧に詰められています。石垣で囲まれた北二の丸と南二の丸は、御殿があった場所と推定されています。



5 東の丸

東の丸は、上中下3段の曲輪から構成され、罫線の石垣がひとつづきとなるように連結されています。火薬を保管した煙硝蔵など軍事施設があったと推定されています。



引田城想像図 大正時代作成

後世の想像図であるため、建物の構造の信ぴょう性は高くありませんが、曲輪の配置はほぼ的確にとらえています。



6 化粧池

化粧池は、引田城のお姫様や女中たちがこの池の水を使って化粧していたと伝えられています。水不足を克服するために築かれた人工の貯水池です。化粧池南側の石垣は、ほかの石垣より、後世に築かれたものです。



7 北曲輪

北曲輪には石垣が築かれていません。ここは石垣を備えた織豊期の引田城以前の土づくりの引田城の遺構と考えられます。